

## 森林レンジャーがゆく

### 「秋風に乗った迷子」 (76)

秋の「鳥の渡り」は、自然界の大イベントです。多くの種類が越冬するため、群れで南下します。このため野鳥を観察しやすくなります。私は、その渡りのピークに合わせて野鳥観察調査の回数を増やし、主にサシバやハチクマなどの猛禽類の個体数や渡りルートを確認します。その他にも、この地域では珍しい種類の飛来記録などが得られます。例えば、今年の秋はアカハラダカという小形猛禽類を始めて確認しました。アカハラダカは、アジア大陸の中国や朝鮮半島などで繁殖した後、越冬のために東南アジアのフィリピンやインドネシアなどの島々へ渡ります。その多くは、九州の西沿岸部や沖縄などを通過していきますが、東日本でアカハラダカが確認されることはまれです。今回確認したアカハラダカは1羽のみで、サシバの群れが作る鷹柱たかばしら（タカが上昇気流に乗って群れで旋回しながら上昇する現象）に交じって南西方向に渡り

ました。市内に一時滞在したかは不明です。

アカハラダカは、市内で初確認となるだけでなく、東京都でも初



サシバの群れに交じってあきる野を訪れたアカハラダカの雌個体

めて正式に記録されると思われます（公開されている「日本野鳥の会奥多摩支部」「八王子・日野カワセミ会」のタカの渡り調査記録による判断）。確認したのは、台風18号が通過した翌日の9月19日でした。台風の影響でルートを変更した可能性があります。結果、あきる野市と全く縁のないはずの小さなタカに出会うことができました。私には、この個体があきる野を中間地点として、繁殖地と越冬地を結びつけたように感じました。やはり、この地球は一つであることを忘れてはいけません。

（パブロ）